

## ★12月に入り、寒い季節になってきました!!★



家庭でも暖をとる為に石油ファンヒーターや石油ストーブを、会社では工場や倉庫などではジェットファンヒーターなどを使う機会が増えてきます。灯油の特性を理解し、正しく使用し火の元に十分注意しましょう。



**危険物 めざせ完封 ゼロ災害**  
(平成24年度危険物安全週間推進標語)

### 【灯油の特性】

灯油はガソリンなどと同じく、揮発油の一種です。しかし、ガソリンほど揮発性は高くありません。自然発火点は220℃、引火点(引火するのに十分な量が気化する温度)は40℃です。基本的に引火点以下の温度でも気化はしています。(保管している灯油が臭うのは気化している証拠です) 気化した灯油蒸気だけでは火は付かず、空気(酸素)と灯油蒸気が一定の濃度になった時だけ火が点きます。灯油蒸気の濃度が濃すぎても火が点きませんし、逆に酸素濃度が多すぎても火が点きません。つまり、灯油蒸気と酸素の濃度が一定条件の範囲内でなければ火種があっても火は点きません。

### ●白いポリタンクでは灯油が変質します

現在販売されている灯油用ポリタンクの色は通常、赤色か青色です。灯油用のポリタンクは特別な処理がしてあるので、紫外線を通しにくい構造になっています。しかし、形が似ているだけの白い飲料水用のポリタンクに灯油を入れてしまうと、容器が劣化するだけでなく、紫外線を吸収して半月ほどで中の灯油が変質してしまいます。

### ●灯油が変質すると不燃や消火不良、発煙などのトラブルが起こります

灯油は通常、透明です。しかし紫外線を吸収すると変質し、黄色や茶色に変色してしまいます。その灯油をストーブやヒーターで使うと、人体に害のある煙の発生や、暖房器具そのものに不具合が出たりするなどトラブルの原因になるのです。

### ●去年の灯油は使わないようにしましょう

余った灯油がもったいないから来年使おう・・・というのはNGです。紫外線対策がされている灯油用ポリタンクに保管していたとしても、去年の灯油は使わないようにしましょう。新しく灯油を買ったら、直射日光の当たらない場所でポリタンクを保管してください。保管用の灯油用ポリタンクも、5年程度が寿命だといわれています。定期的買い替えないと、新しい灯油をすぐに劣化させてしまう恐れもあります。

**火気厳禁**  
火気のそばに置くと灯油缶が溶解したり、引火して火事の原因になります

**用途以外での使用厳禁**  
灯油専用です。灯油以外では使用しないで下さい

**事故防止の為、5年以上は使用しないで下さい**  
長時間、直射日光にさらされていると灯油缶が劣化します

※お早めの買い替えをお勧めします

・キズ  
・材質の劣化

白いポリタンクは…



**灯油禁止**

**注意** キャップの締め忘れに注意しましょう。

